

令和6年度 第1回小松市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和6年12月26日(木)
開会 午前10時00分 閉会 午前11時00分
- 2 会 場 小松市役所3階会議室
- 3 出席者 小松市長 宮橋 勝栄(議長)
小松市教育委員会
教 育 長 山本 民夫
委 員 中惣 恭子
委 員 村井 啓介
委 員 浅蔵 一華
委 員 表 幹也
(事務局関係)
総合政策部長 藤井 勝司
総合政策部 総合政策課長 吉岡 謙
総合政策部 総合政策課主査 松山 拓巨
教育委員会事務局 事務局長 長谷川 巖
教育委員会事務局 事務局次長兼教育庶務課長 東谷 勝美
教育委員会事務局 学校教育課長 宮森 睦夫
教育委員会事務局 教育研究センター所長 中田 一宏
教育委員会事務局 生涯学習課長 城下 浩介
教育委員会事務局 図書館長 田中 明子
教育委員会事務局 ひととものづくり科学館副館長 宮島 浩典
小松市立高等学校 事務長 中川 久美子
- 4 討議事項 ・「小松市教育大綱について」について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○宮橋市長あいさつ

- ・教育は基礎自治体がしっかりと担うべき分野であり、その方向性をしっかりと決めていく。
- ・2040年ビジョンにおいても「子どもたちの輝く未来創造都市こまつ」を掲げており、学校給食の無償化をはじめとした様々な子育て支援を実施している。一方で、時代の変化に対応するためにも質の向上が必要となってくる。また、子どもたちだけではなく、人生100年時代においては、リスクリング等についても取り組んでいく必要がある。

- ・本日の議題は、5年ぶりの改正となる小松市教育大綱についてです。教育大綱の制定は教育委員会で取り組む今後の政策の方向性を決めるものであり、非常に重要なものであると考えており、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴できたらと思う。

○討議事項

- ・「小松市教育大綱について」について

〈議長〉

- ・議題「小松市教育大綱について」について説明をお願いしたい。

〈総合政策部 藤井部長（資料に基づき教育理念・教育目標について説明）〉

- ・第3期教育大綱は2025年度から2029年度までの5か年の計画となる。
- ・教育大綱は法律により市長が定めるとされているが、本会議において教育委員の皆様からのご意見を頂きながら、最終的にまとめ、制定した教育大綱に沿って、教育の政策を展開していくことになる。
- ・まず、教育目標は「あらゆる世代の成長が社会の持続的な発展に」とした。教育は社会の根幹であり、国の中でも重要な政策のひとつ。教育のみが国・県・市・町・村・区、すべての行政が携わっていることから重要性は見て取れ、その重要性を認識した上で目標を定めたいと考えている。子どもだけではなく、大人のちょっとした成長も知らず知らずのうちに社会のため、持続的な発展につながっていることを明確に表したものとした。
- ・一方、教育理念については、「Learn well, Live well」とし、良い学びが良い暮らし（人生）につながるということで、教育そのものが重く当たらないよう、あえてカジュアルな言い回しとしている。また、サブタイトルとして、「～いつだって、誰だって、新しい可能性を～」をつけており、昨日の自分より今日の自分は成長しており、ちょっとしたことで成長するということを表現している。学ぶことは身近で、そういったものが人生を豊かにするということをカジュアルに市民に伝え、教育・学びが浸透していくようにという願いを込めている。あくまで案として提示させて頂く。

〈教育委員会 長谷川事務局長（資料に基づき教育方針について説明）〉

- ・教育方針については、教育理念、教育目標を踏まえて具体的にどういった政策を展開していくのか基本的な方針を示しており、「誰もが輝ける「学びのBest Balance」とした。
- ・学びのBest Balanceというのは「一人一人が進める「個別最適な学び」と互いに学び合う「協働的な学び」をバランスよく組み合わせて資質・能力を伸ばす」と整理している。
- ・現在の教育大綱では「学びの道しるべ 智仁勇 明日のこまつを創る人」を教育理念としているが、大きく中身が変わるわけではなく、新しく「個別最適な学び」や「協働的な学び」、教育の現状、課題に対応するためのアレンジであると考えている。

- ・個別の政策の前に、政策展開を考える上で意識している点を5点示させて頂く。
「こまつで学び・遊び・育む」、「伸ばしこぼれ（浮きこぼれ）なく、可能性を引き出す」、「時代に即した持続可能な学校教育環境を整備」、「幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード」、「新たな学び、新たなスキルでウェルビーイングを向上」の5点である。
- ・「こまつで学び・遊び・育む」
 - ・・・「こまつ」という地域そのものが素材としてあり、学校教育や子どもに限らずあらゆる市民が「こまつ」で成長していくと考えている。
- ・「伸ばしこぼれ（浮きこぼれ）なく、可能性を引き出す」
 - ・・・これまでは底上げ教育が意識されていたが、これからはギフテッドを含め才能のある人にもスポットを当てて、才能を引き出す教育にも力を入れ、社会が発展していくためにリードしていく才能を育てていくことも重要だと考えている。
- ・「時代に即した持続可能な学校教育環境を整備」
 - ・・・人口減、高齢化により社会資源減少していく中で教育にリソースをどう配分するかという観点であり、令和2年から始まっているGIGAスクールも例の一つだが、学校設備についても最適化を図っていく。
- ・「幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード」
 - ・・・市内には認定こども園、保育園といった施設から大学まで教育機関が揃っているが、個別に教育を進めるだけではなく、みどり学園をはじめとした小中連携など、それぞれが連携することにより教育の質を上げていく。
- ・「新たな学び、新たなスキルでウェルビーイングを向上」
 - ・・・常に学びはあらゆる市民にとって幸福になるための手段であり、生涯教育、リスキリングなどの必要性が高まっている。
- ・具体の政策については次のとおりとした。
 - (幼児教育・義務教育)
 - ・多様な遊びや体験を通した学びの実践
 - ・学びの芽生えから自覚的な学びへとつなげ学びの連続性を確保
 - ・「聞く」「話す」「読む」「書く」の学びの基礎を築き、国語力を身につける
 - ・地域、ふるさとの魅力を学び、郷土愛を育む
 - ・引上げ教育・キャリア教育により多様な可能性を後押し
 - ・様々な属性や個性、背景を有する者との協働的学びの実践
 - ・成功体験を通して主体性を育む
 - ・異文化に触れ、新しい世界への扉を開く
 - ・デジタル社会に必要な情報リテラシーの獲得
 - (高等教育（高校・大学・社会人）)
 - ・地域と世界で活躍する人材育成
 - ・外国語教育の充実

- ・海外留学及び外国人留学生の受入れ推進
- ・目指すキャリアに応える教育の実践
- ・リスキリング、リカレントなど大人の学び直しの場の提供

(教育体制)

- ・小学校や幼稚園、こども園の連携強化
- ・一人ひとりの個性を認め、自己実現が可能となる指導の実施
- ・専門性を高めるための教師自身の主体的な学びの促進
- ・AI・ICT ツールを活用した業務見直し等により、教師自身が「学びの Best Balance」を実践

(教育環境)

- ・社会変化に対応した適切な教育環境の確保
- ・共生社会実現 に向けた教育の推進
- ・地域における教育に係る諸活動に対する支援

(市民活動)

- ・地域文化・歴史・スポーツなど地域における生涯学習・スポーツ活動の活性化
- ・余暇活動等の生涯を通じた学びの実践

<議長>

- ・補足させて頂くと、特徴的な言葉として「伸ばしこぼれ」を使っている。世間一般では「浮きこぼれ」という表現が多いが、市の都市デザインの中でも使わせて頂いている。先生方の努力で基礎学力、基礎生活習慣は底上げができていていると感じているが、一方で発達の状況によっては十分に支援が届いていない部分があると認識している。課題を抱えている子ども達の中にも才能があり、そこを伸ばし切れていないと感じており、学力に限らずスポーツにおいても伸ばしていける部分がまだまだある。こういったところを支援し、光を当てていく必要があるという思いから表現させて頂いている。
- ・また、「時代に即した持続可能な学校教育を整備」についてだが、様々な教育の質を上げて、その環境を確保していくためには、学校の建物や設備、教職員の充実も必要だが、少子化が進んでいく中で、教育環境は変化していることから、小松市における学校教育の最適化を図っていく必要があり、将来的な学校配置・規模なども見た上で、表現を選ばずに言うならば統廃合（再配置）も避けては通れない状況にあることをご理解頂きたい。

<議長>

- ・委員の皆さんからご意見を頂きたい。

<中惣委員>

- ・現在、伝統文化の継承を試行錯誤している中で、小学生からでは遅いという思いもあ

り、幼児からの伝統文化の継承に力を入れている。2歳から受入れしており、幼児教育ではマンツーマンとなる弊害もあるが力を入れている。

- ・そういった中で、現状、課題を抱えている子どもたちからの依頼が増えている。理由としては、例えば特別支援に通っている子、長期療養が必要な子などが体験をする場がないという実情があることから、生け花をマンツーマンで体験できる環境が受け入れられている。
- ・事務局からの説明において幼児からお年寄りまでの学びという話があったが、幼児教育を始めたことにより保護者や祖父母と一緒に通うということがあり、幼児を教えることでその世界が広がっている。学校では幼児とお年寄りが一緒に学ぶことは難しいため、伝統文化など学びの場を広げて頂くことで可能になると考えている。課題を抱えている子ども達に、どんどん体験の場を与え、光を当てていくことが、私の思っていることであったので、これを進めて頂ければと思います。

<村井委員>

- ・学校の計画訪問をする中で、教職員の方から自己肯定感が乏しい子が多いという声を聞くことが多く、原因を考えるに、案として出ている伸ばしこぼれ、才能といった部分に関係があると考えている。特に幼児教育や義務教育においてはバランスも大事だが、埋もれている才能を見つけられないまま大人になることほどもったいないことはなく、発見させる手助けをできる教育の現場や地域社会になればよい。お互いがリスクペクトし、みんなで相互補完しながら成し遂げられる雰囲気は重要。
- ・本業は製造業だが、ボランティアとしてスポーツ指導者をしている。その中で、部活動地域移行が始まることも大きなきっかけの一つになる。地域の人と競技力というよりはスポーツを通じた人材育成に学校の先生以外の人が参画できることも、この案の目的の一つに入れることができていると思っている。
- ・学校教育整備の中で、統廃合の話があったが、製造業でも協同組合があり統廃合や合理化を進める必要があるものの進まない。目的を定めて組織がどうあるべきかを考える必要がある。統廃合ありきではなく、求められる組織像に近づけていく必要がある。

<議長>

- ・小規模校の統合というよりも、あるべき教育像実現のためにどういった学校が必要かを考えていく必要がある。

<浅蔵委員>

- ・伝統文化の仕事をしている身から話せて頂くと、外国語教育・海外留学の話もあったが、これまでに留学生を受け入れた経験がある。その時、小学生低学年の子でも自分の国・地域のことをちゃんと伝えることができていた。小松に生まれ育った子は外に出たときに言うことができるかなと考える。ちょっとでも県外・海外に行く経験を必要がある。小松は九谷焼に限らず、生け花、お茶、織物、歌舞伎などたくさんの

伝統文化があるが、例えば、歌舞伎も曳山のある町の子や当番で回ってきた中学生もいるが、多くは地域が外れると身近なものではないこともある。また、私の町内では獅子舞がなくなるなどお祭りも簡素化している。地域のつながりを知った上で、ほかの地域に行ったり、戻ってきたりしてほしいと思っている。

- ・海外留学するにしても費用面でハードルが高く、サポートがあればよい。

<表委員>

- ・中3、小5の子がいるが、教員1人で30人前後を見る環境に無理があるように感じている。教員にも専門性、得意不得意があると思う。例えば、英語教育についても、教員間で差があるように思う。学校で何時間勉強しても、休み時間や家に帰れば日本語となる。例えば、教員免許がなくても英語を話すことができる外国語講師を受け入れるなど、英語しか使えない環境を作ることができれば語学力は伸びる。
- ・英語に限らず、スポーツにおいても当てはまる。1人の教員が多分野を担当するよりは役割分担をした教育をできるようになることが、教員にとっても働きがいがある環境となり、子ども達にとっても良い教育環境になるのではないかと感じている。
- ・福祉の観点からは、障がいを持った子どもが社会になじめないのは当たり前で、それが特性。冰山モデルとよく言われるが、表面的に出た問題だけを捉えて注意するのではなく、深層部分がどうなっているかを考える必要がある。

<山本教育長>

- ・教育課題は問題山積で多岐に渡り、簡単に解決できない。ご意見の中にもあったが、それぞれの個性、能力を持った子に画一的に一斉に同じことを押し付ける時代ではなくなった。ただし、教室だけでできるのではなく、地域とのつながりや市全体で子ども達を育てる感覚を持って教育に参画して頂ければと考えている。

<議長>

- ・「学びのBest Balance」について補足説明をお願いしたい。

→<山本教育長>

これまでの日本型の教育である一斉授業は海外から一定の評価を得ていることもあるが、これからはその部分も大事にしながら、これから必要な人材を育むために必要なものを入れ、どちらかに偏ることなくバランスの取れた学びをし、自分にとって最適なものを見つけていくということを意味している。

- ・1人の子にとっては、どこかが特化していることもその子にとってはバランスが取れているということも意味している。
- ・それでは、今後、小松市教育大綱として定めていくにあたり方向性を確認したい。教育理念が「智仁勇」から「Learn well, Live well」と大きく変わることに対して皆さんどうか。

→了。

- ・「智仁勇」という言葉や「学びの道しるべ」にある言葉も大切にしていきながら、ポップな部分を取り入れた表現としていく。
- ・表現が少し変わるかもしれないが、教育理念、教育目標、教育方針については提示の内容で方向性を固めさせて頂きたいが、どうか。
→了。
- ・また、本日、頂いた意見については政策の部分で検討させて頂き、次回は教育大綱という形の素案をご提示させて頂く。
- ・以上で本日の討議事項を終了させて頂く。ありがとうございました。

以上

○閉 会